

為替相場展望

2012年2月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/>

【目 次】

為替相場概説	1
相場回顧	2
為替関連指標の動向	3 ～ 6
トピックス	7
見通し	8
資料	

◆本資料は2012年2月2日17:00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆本資料に関するご照会は、下記あてお願いいたします。

欧米経済・市場動向グループ

井上 肇 (Tel : 03-6833-0920 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

為替相場概説（2012年2月）

1. 相場回顧

＜1月のドル円相場＞

月中旬まで77円を挟んで小動きが続いたものの、下旬は、2011年のわが国貿易収支の赤字転化を受け、25日に78円台まで円安が進行。もっとも、25日の米FOMCでFRBが超低金利政策の一段の長期化を示唆したこと等を受けて、月末には76円台前半まで円高ドル安が進行。

＜1月のユーロ円相場＞

ユーロ圏9カ国の国債格下げ等を受けて、月半ばにかけて97円台までユーロが下落。その後、ユーロ圏各国での順調な国債入札やIMFによる融資能力拡大方針の発表等を好感して、ユーロが一旦102円台まで反発。月末にかけては、ギリシャの債務削減交渉難航を受け、99円台までユーロが再び下落。

2. 為替関連指標の動向

＜日米独金利差と日米欧の金融政策＞

1月の米2年債利回りは、狭いレンジでの動きながら、25日の米FOMC後に小幅低下。独2年債利回りは、月初から低下傾向が続いたものの、月半ば頃から、反発。この間、わが国の2年債利回りは、底這い推移。この結果、FOMC後の米金利の低下がドル安に作用。また、月前半の独金利の低下はユーロ安圧力となる一方、月後半の独金利の上昇はユーロの反発をサポート。先行き米独ともに2年債利回りは低位での推移が続くことが見込まれるなか、内外金利差の大幅拡大は当面見込めず、本格的な円安基調への反転は期待薄。一方、金利差の縮小余地も乏しく、円高進行余地も限定的。

＜日米欧の貿易収支と生産・景況感格差＞

12月の本邦貿易収支は赤字。2011年暦年でも31年ぶりの貿易赤字に転化。先行き貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかり、実需面での円高圧力は抑制される見込み。もっとも、経常黒字が維持されるもと、大幅な円安も期待薄。

12月の米鉱工業生産が増加する一方、11月のユーロ圏鉱工業生産は減少。米欧の景況感格差がユーロ安に作用する見込み。また、12月の本邦鉱工業生産は大幅増となったものの、10～12月期で均してみると足踏み状態。震災後の急速な持ち直し局面は一巡し、日米の景況感格差が消滅するなか、円高圧力は減退。

＜日本の対内対外証券投資動向＞

日本の証券投資は、対内投資が堅調の一方、対外投資は回復傾向ながら低水準。先行きも海外投資家による短期債を中心とした日本国債への投資が堅調に推移する一方、本邦投資家による対外投資が低調にとどまる公算が大きく、日本の証券投資フローが円安圧力となるのは当面期待薄。

＜米国の証券投資・IMM通貨先物＞

米国の証券投資は、海外からの対米証券投資が持ち直す一方、米国からの対外証券投資は低調に推移。欧州債務問題の懸案が依然として山積するなか、引き続きリスク回避の動きが強まりやすく、海外投資家の米国債投資が堅調に推移する一方、米国投資家による対外投資が低調にとどまり、証券投資フローはドルを下支えする公算が大。

IMM通貨先物取引の動向をみると、円のロング・ポジションは、年末年始にかけて再び拡大。1月24日時点ではやや縮小したものの、引き続き高水準。円高進行余地は限られる見込み。ユーロのショート・ポジションは、1月24日時点で過去最高水準まで拡大。短期的にはユーロ買い戻しの動きが生じやすい状況。

3. トピックス

＜トピックス：米FRBの時間軸政策延長＞

米FRBは1月25日のFOMC後の声明で、政策金利を「異例の低水準」に据え置く期間を、従来の少なくとも「2013年半ば」から「2014年終盤」へと1年以上延長。さらに、FOMC後の記者会見でバーナンキFRB議長は、追加量的緩和の可能性に改めて言及。米FRBの低金利政策が一段と長期化する公算が大となったことに加え、追加金融緩和の可能性に含みが残されたことで、円安ドル高基調への反転は一段と遠のいた感。

4. 見通し

＜ドル円相場の見通し＞

良好な米国の景気指標が相次いでいることがドル高材料となる一方、米FRBが景気の下振れ回避に向け、超低金利政策の一段の長期化に加え、追加の金融緩和も辞さない姿勢を示しており、ドル安圧力が残存。追加金融緩和期待が一段と高まる局面では、一時的に円高ドル安進行するリスクも。もっとも、わが国通貨当局が円高回避に向けた強い姿勢を示していることなどから、円高進行余地は限定的。この結果、ドル円は、円高値圏での一進一退が長期化する見込み。

＜ユーロ円相場の見通し＞

ECBによる長期資金供給オペにより、金融市場は一旦落ち着きつつあるものの、国債の大量償還など、欧州債務問題の懸案が山積するなか、年前半はユーロの軟調推移が続く見通し。ユーロ圏のマイナス成長が見込まれることや、ECBによる追加金融緩和観測もユーロ下押しに作用する見込み。ユーロ圏各国が抜本的な対策を打ち出していけば、年後半にユーロの下げ止まりも視野に。もっとも、日米対比でユーロ圏の景気回復ペースが遅いと予想されるほか、ECBによる低金利政策の長期化が予想されることから、ユーロ高基調への反転は期待薄。

相場回顧

ドル円は、中旬まで小動きとなったものの、下旬に円高ドル安が進行。ユーロは下落基調。月半ばに一旦反発したものの、月末にかけては再び下落。

＜1月のドル円相場＞

欧州債務問題に市場の関心が向かうなか、月中旬まで77円を挟んで小動き。下旬は、2011年のわが国貿易収支の31年ぶりの赤字転化を受け、25日に一時78円台まで円安が進行。もっとも、同日の米FOMCでFRBが超低金利政策を2014年終盤まで長期化させる方針を示唆したことや、2011年10～12月期の米GDP統計が市場予想に届かず、米国景気の本格回復への期待が後退したこと等を受けて、月末には76円台前半まで円高ドル安が進行。

＜1月のユーロ円相場＞

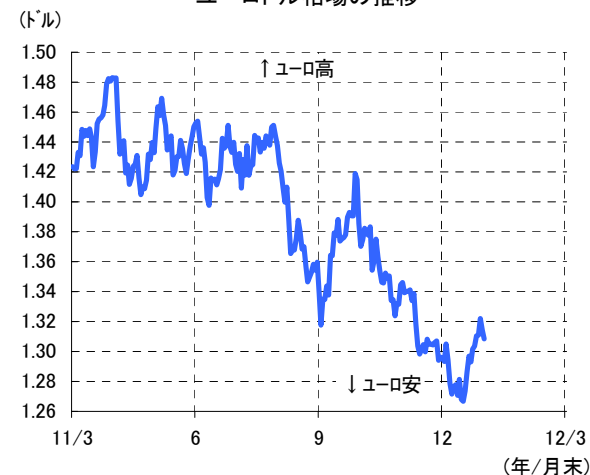
ユーロ圏諸国の国債格下げ観測などを背景に、月初からユーロが下落基調。13日にS&Pがフランスなどユーロ圏9カ国の国債を実際に格下げしたことを受けて、16日には約11年ぶりのユーロ安水準となる97.04円までユーロが下落。その後、①ユーロ圏各国での順調な国債入札、②IMFによる融資能力拡大方針の発表、③市場予想対比良好なドイツ経済指標、等を好感して、ユーロが一旦102円台まで反発したものの、月末にかけては、ギリシャの債務削減交渉難航を受けて、99円台までユーロが再び下落。

ドル円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

ユーロドル相場の推移



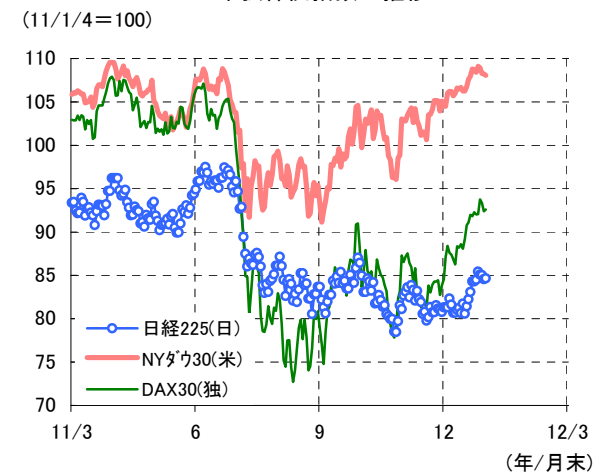
(資料)Bloomberg L.P.

ユーロ円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

日米独株価指数の推移



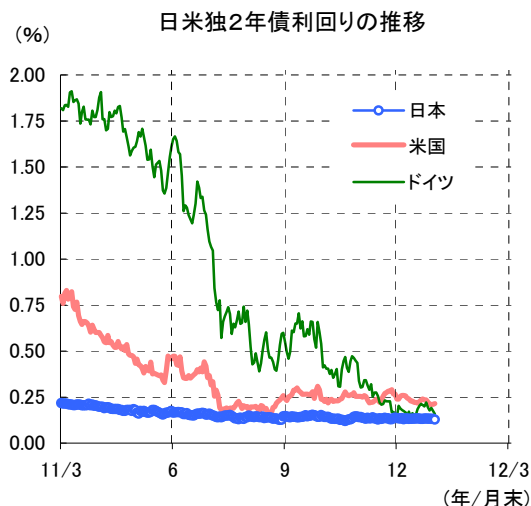
(資料)Bloomberg L.P.

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年2月

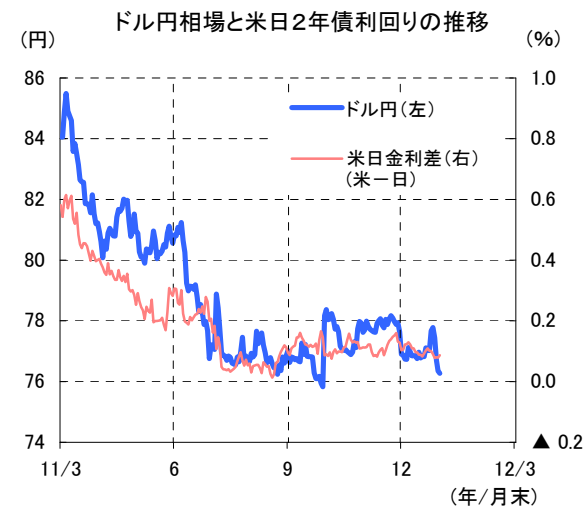
内外金利差の大幅拡大が当面見込めないなか、円安基調への反転は期待薄。一方、金利差の縮小余地も乏しく、円高進行余地も限定的。

1月の米2年債利回りは、狭いレンジでの動きとなったものの、25日の米FOMCでFRBが超低金利政策の一段の長期化を示唆したことを受けて、小幅低下。独2年債利回りは、欧州債務問題への懸念を背景に逃避資金が流入し、月初から低下傾向が続いたものの、月半ば頃から過度な懸念が後退し、反発。この間、わが国の2年債利回りは、底這い推移。この結果、FOMC後の米金利の低下がドル安に作用。また、月前半の独金利の低下はユーロ安圧力となる一方、月後半の独金利の上昇はユーロの反発をサポート。

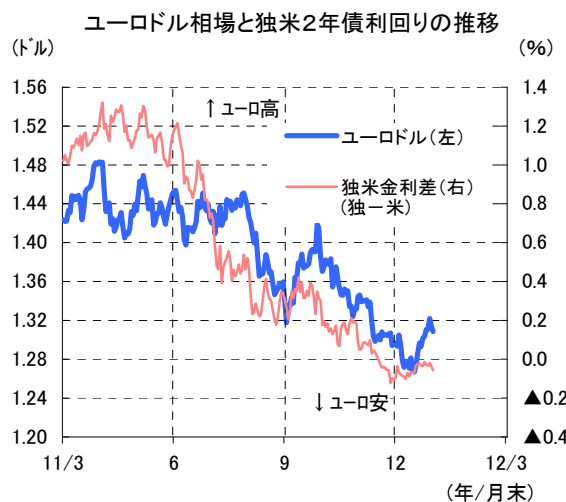
先行きを展望すると、米2年債利回りは、景気回復期待が金利押し上げ要因となる一方、米FRBによる追加金融緩和観測、超低金利政策の長期化、逃避資金流入が金利下押しに作用し、低位での推移が続く見込み。独2年債利回りも、ECBによる追加金融緩和観測、低金利政策の長期化、逃避資金の流入が金利下押しに作用し、低位での推移が続く見込み。一方、わが国でも、円高を通じた景気下振れ懸念が高まれば、日銀の追加金融緩和が見込まれるものの、2年債利回りの低下余地は限定的。こうしたなか、内外金利差の大幅拡大は当面見込めず、本格的な円安基調への反転は期待薄。一方、金利差の縮小余地も乏しくなっており、円高進行余地も限定的。



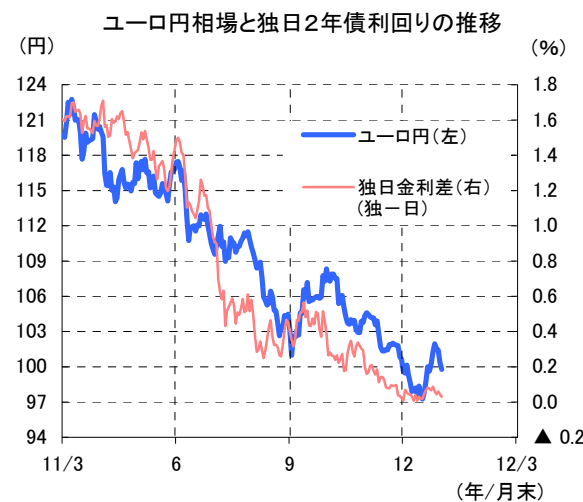
(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.

貿易収支の黒字基調回復にはなお時間。実需面からの円高圧力は抑制される見込み。景況感格差はユーロ安に作用する一方、円高圧力は減退。

＜日米欧の貿易収支＞

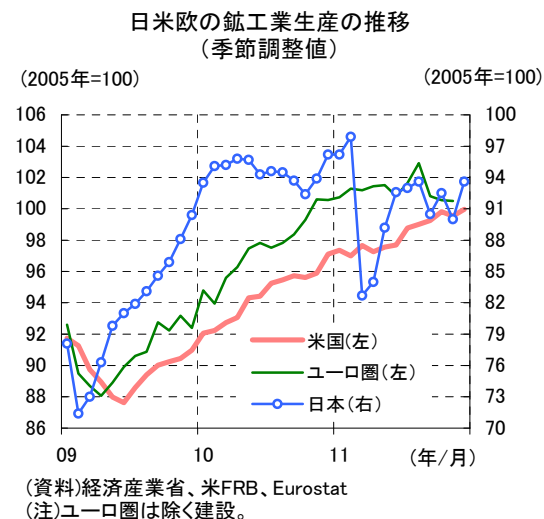
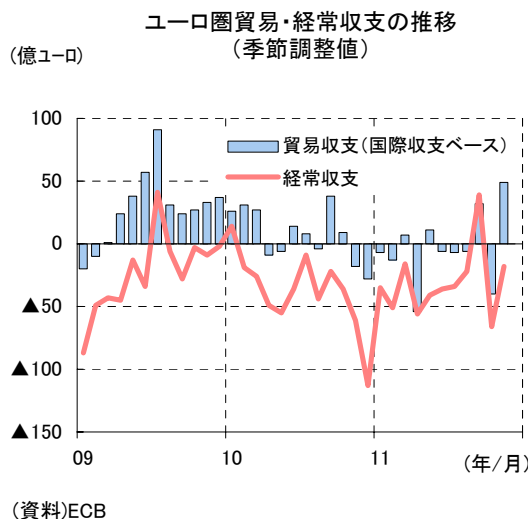
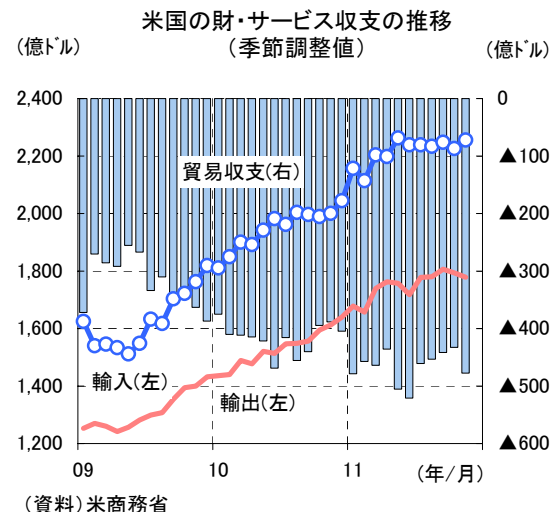
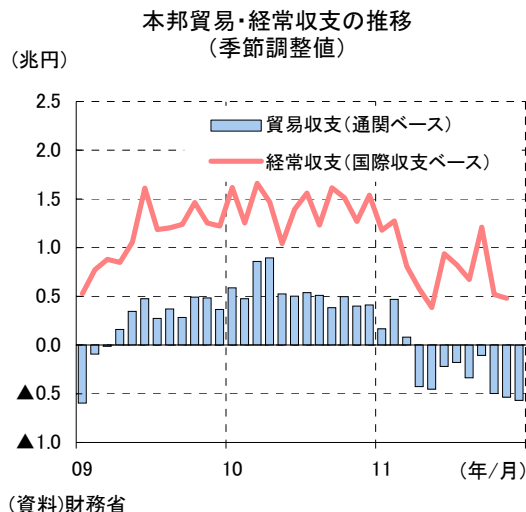
12月の本邦貿易収支（原数値）は、輸出が減少する一方、輸入が高止まりし、▲2,051億円の赤字。2011年暦年でも、31年ぶりの貿易赤字に転化。当面は世界経済の減速、既往円高が輸出を下押しする一方、全国的な原発停止による火力発電用燃料の需要増加が輸入を押し上げる見込み。さらに、イラン情勢緊迫化により原油価格が上昇すれば、輸入が一段と上振れする可能性。このため、貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかり、実需面での円高圧力は抑制される見込み。もっとも、経常黒字が維持されるもと、大幅な円安も期待薄。

11月の米貿易赤字は、輸出が減少する一方、輸入が増加し、▲477.5億ドルと5ヵ月ぶりに拡大し、実需面でのドル安圧力が増大。11月のユーロ圏の貿易収支は、69億ユーロの黒字に転換し、実需面ではユーロを下支え。

＜日米欧の生産・景況感格差＞

12月の米鉱工業生産は前月比+0.4%となる一方、11月のユーロ圏鉱工業生産は同▲0.1%。先行き米国では緩やかな景気回復が見込まれるのに対し、ユーロ圏では年前半にマイナス成長が見込まれており、米欧の景況感格差がユーロ安に作用する見込み。なお、ユーロ圏では、1月のユーロ圏景況感指数が11ヵ月ぶりに改善するなど、景況感の意外な改善がみられたものの、このまま改善が続くかは不透明。

12月の本邦鉱工業生産は、前月比+4.0%と大幅上昇となったものの、10～12月期で均してみると前期比▲0.4%と足踏み状態。震災後の急速な持ち直し局面は一巡し、日米の景況感格差が消滅するなか、円高圧力は減退。



対内投資の堅調、対外投資の低調が持続する公算が大きく、日本の証券投資フローが円安圧力となるのは当面期待薄。

〈月次対内対外証券投資(11月迄)〉

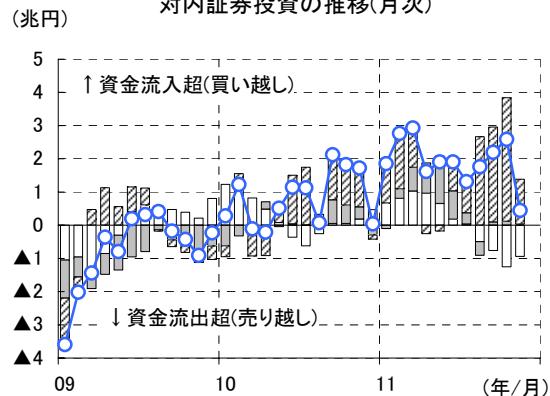
海外投資家による対内証券投資は、昨年入り以降、買い越しが持続。昨夏以降は、世界経済の減速や欧州債務問題等を背景に、海外投資家のリスク回避の動きが強まり、株式投資が減少する一方、短期債を中心に日本国債への投資が増加。一方、国内投資家による対外証券投資は、欧州債務問題深刻化や世界経済の減速を受け、前年対比では低水準にとどまっているものの、中長期債への投資を中心に回復傾向。トータルでみると、日本への資金流入ペースが鈍化傾向にあり、円高圧力は緩和方向。

〈週次対内対外証券投資(12月以降)〉

12月以降の動向をみると、海外投資家による対内証券投資は、短期債への投資が堅調で、買い越し基調で推移。一方、国内投資家による対外証券投資は、中長期債への投資を中心に買い越し基調となっているものの、低水準。トータルでは、日本への資金流入ペースが加速傾向。

欧州債務問題の懸案が依然として山積するなか、引き続きリスク回避の動きが強まりやすい状況。加えて、米欧ともに低金利が長期化する公算が大で、内外金利差の拡大も期待薄。こうしたなか、海外投資家による短期債を中心とした日本国債への投資が堅調に推移する一方、本邦投資家による対外投資が低調にとどまる公算が大きく、日本の証券投資フローが円安圧力となるのは当面期待薄。

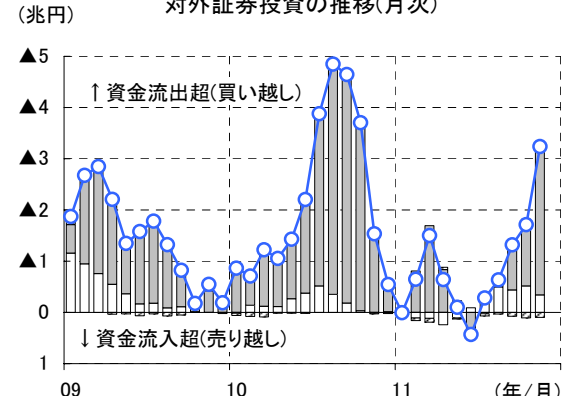
対内証券投資の推移(月次)



株式 中長期債 短期債 計

(資料)財務省、日銀
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

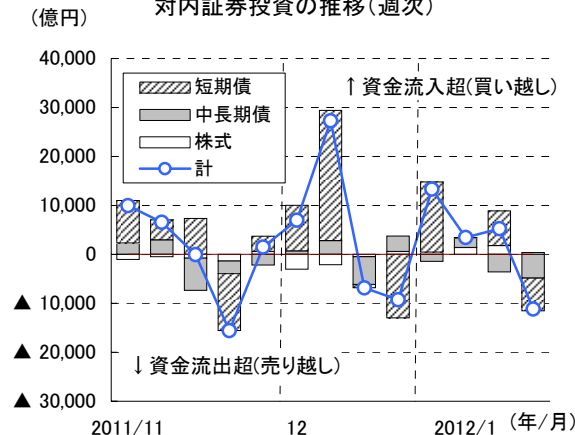
対外証券投資の推移(月次)



株式 中長期債 短期債 計

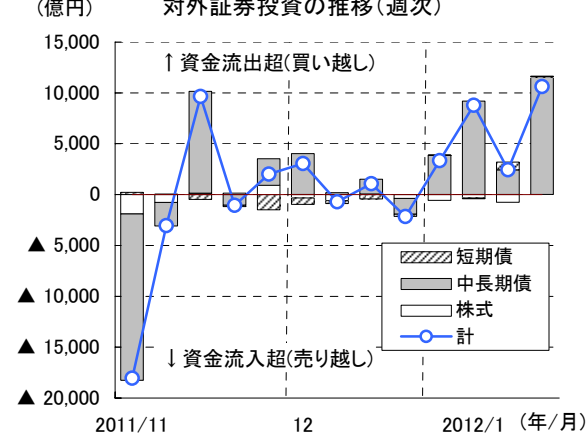
(資料)財務省、日銀
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

対内証券投資の推移(週次)



(資料)財務省

対外証券投資の推移(週次)



(資料)財務省

米国の証券投資フローは引き続きドルを下支えする公算が大。投機筋のユーロ売り余力は限定的で、短期的にはユーロ買い戻しの動きが生じやすい状況。

＜米国の対内対外証券投資動向＞

昨夏以降、海外からの対米証券投資が持ち直す一方、米国からの対外証券投資は低調に推移。世界経済の減速や欧州債務問題への懸念から、海外投資家による米国債への資金逃避が活発化する一方、米国投資家による対外投資姿勢が慎重化。トータルでみると、米国への資金流入ペースが加速傾向にあり、ドルを下支え。もっとも、昨年1～11月の証券投資フローは、3,941.7億ドルの資金流入超にとどまり、同期間の米貿易赤字▲5,127.8億ドルをファイナンスできていない水準。

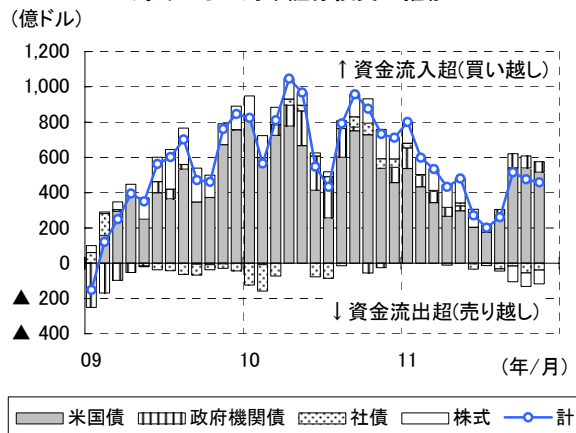
欧州債務問題の懸案が依然として山積するなか、引き続きリスク回避の動きが強まりやすく、海外投資家の米国債投資が堅調に推移する一方、米国投資家による対外投資が低調にとどまり、証券投資フローはドルを下支えする公算が大。

＜IMM通貨先物ポジション＞

IMM通貨先物取引の動向をみると、円のロング・ポジションは年末年始にかけて再び拡大。1月24日時点ではやや縮小したもの、ロング・ポジションは引き続き高水準。円高進行余地は限られる見込み。

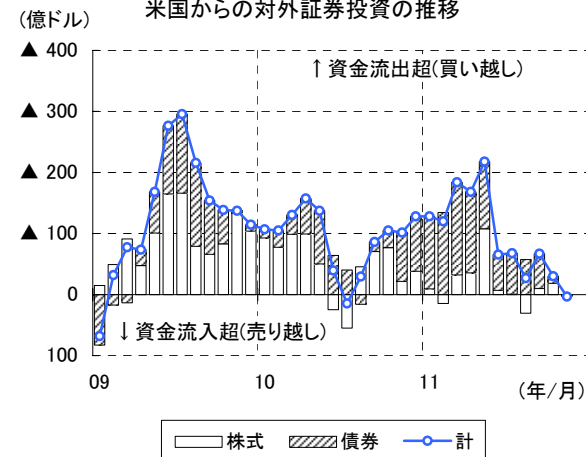
ユーロのショート・ポジションは1月24日時点で過去最高水準まで拡大。1月半ばのユーロの反発はポジション解消の動きが主導したとみられていたものの、ユーロが反発するなかでもポジションが一段と拡大。投機筋のユーロ売り余力は限定的になっているとみられ、短期的にはユーロ買い戻しの動きが生じやすい状況。

海外からの対米証券投資の推移



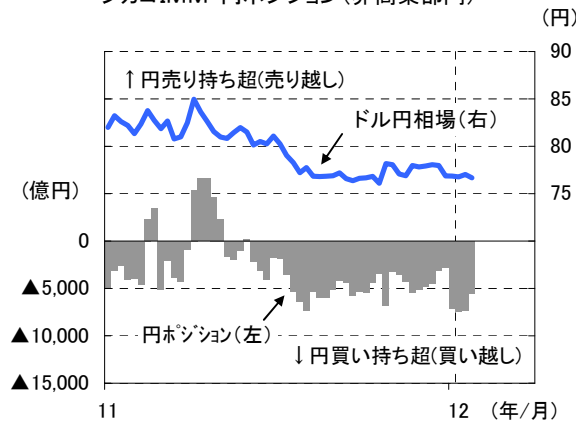
(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

米国からの対外証券投資の推移



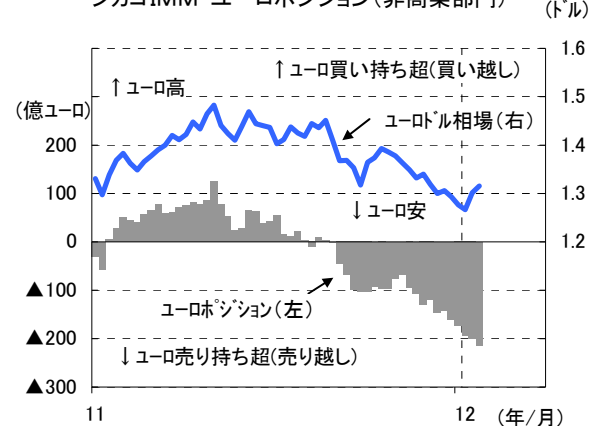
(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

シカゴIMM・円ポジション(非商業部門)



(注)直近値は1/24。
(資料)米CFTC

シカゴIMM・ユーロポジション(非商業部門)



(注)直近値は1/24。
(資料)米CFTC

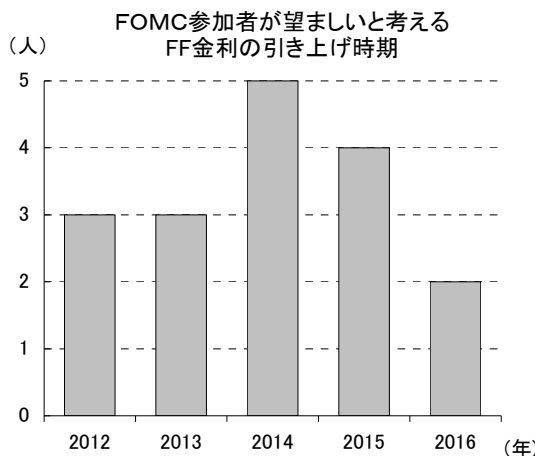
米FRBの低金利政策が一段と長期化する公算が大となったことに加え、追加緩和に含みが残されたことで、円安ドル高基調への反転は一段と遠のいた感。

米FRBは1月25日のFOMC後の声明で、政策金利を「異例の低水準」に据え置く期間を、従来の少なくとも「2013年半ば」から「2014年終盤」へと1年以上延長。なお、今回のFOMCから発表（経済見通しの発表に合わせて年4回）されることになったFOMC参加者の政策金利見通しによれば、参加者17人のうち過半の11人が2014年以降の利上げ時期が望ましいと考えていることが判明。さらに、今回のFOMC後の記者会見でバーナンキFRB議長は、追加量的緩和の可能性に改めて言及。

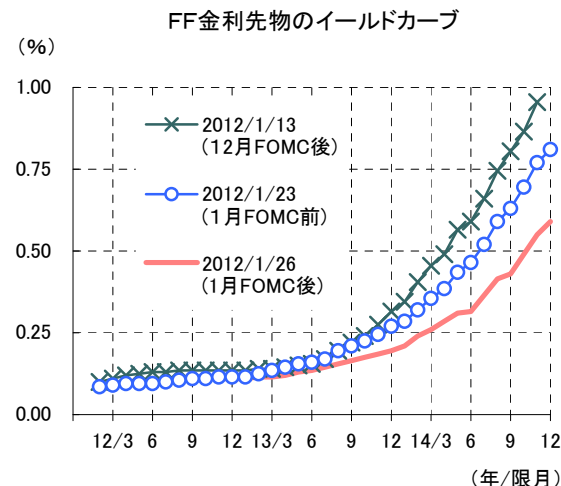
市場の反応をみると、FOMC後、FF金利先物のイールドカーブは一段とフラット化。利上げ期待時期が市場の事前予想より後ずれしたことを示唆。これに伴い、ドル円相場と相関の高い米2年債利回りも低下し、ドルが下落。

米FRBの低金利政策が一段と長期化する公算が大となったことに加え、追加金融緩和の可能性に含みが残されたことで、円安ドル高基調への反転は一段と遠のいた感。

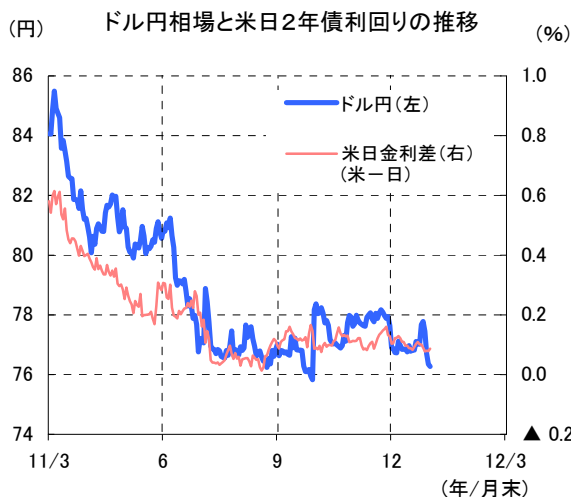
ちなみに、今回のFOMCから、FOMC投票権者10名のうち4名が交代し、景気・物価の状況次第で追加緩和を容認する「ハト派」が大半に。2012年は、2011年より緩和的な政策を打ち出しやすくなっているとみられ、ドル安へのバイアスがかかりやすい状況。



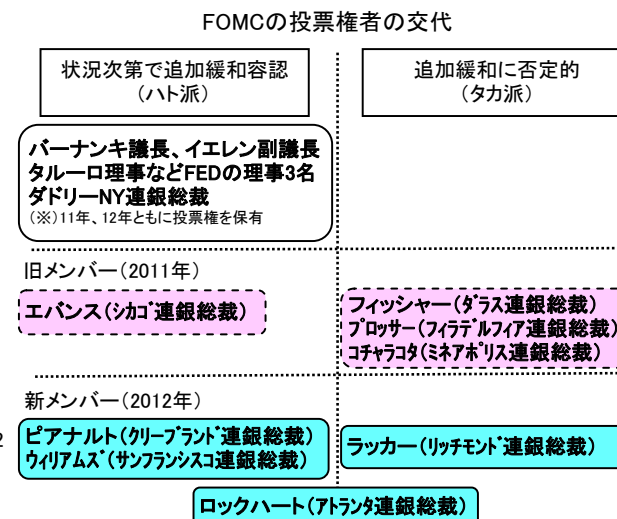
(資料)米FRB



(資料)米Chicago Board of Trade



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)米FRB、Bloomberg L.P. などをもとに日本総研作成

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年2月

見通し

ドル円は、米国の追加緩和期待がドル安圧力に。円高進行余地は限定的ながら、円高値圏での一進一退が長期化する見込み。ユーロ円は、軟調推移が続く見込み。危機対応が前進すれば、年後半に下げ止まりも視野。

＜ドル円相場の見通し＞

良好な米国の景気指標が相次いでいることがドル高材料となる一方、米F R Bが景気の下振れ回避に向け、超低金利政策の一段の長期化に加え、追加の金融緩和も辞さない姿勢を示しており、ドル安圧力が残存。追加金融緩和期待が一段と高まる局面では、一時的に円高ドル安進行するリスクも。もっとも、わが国通貨当局が円高回避に向けた強い姿勢を示していることなどから、円高進行余地は限定的となる見込み。この結果、ドル円は、円高値圏での一進一退が長期化する見込み。

＜ユーロ円相場の見通し＞

E C Bによる長期資金供給オペにより、金融市場は一旦落ち着きつつあるものの、国債の大量償還など、欧州債務問題の懸案が依然として山積するなか、年前半はユーロの軟調推移が続く見通し。ユーロ圏のマイナス成長が予想されることや、物価情勢次第ではE C Bによる追加金融緩和が見込まれることもユーロ下押しに作用する見込み。

欧州債務問題の鎮静化に向けて、ユーロ圏各国が抜本的な対策を打ち出していけば、年後半以降、ユーロの下げ止まりも視野に。もっとも、欧州債務問題が鎮静化に向かったとしても、日米対比でユーロ圏の景気回復ペースが遅いと予想されるほか、E C Bによる低金利政策の長期化が予想されることから、ユーロ高基調への反転は期待薄。

ドル円相場見通し

(円)

	2011年	2012年			
	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
期中平均	77.35	77	78	78	79
(高値)	79.54	79	80	80	81
レンジ	¥	¥	¥	¥	¥
(安値)	75.35	75	75	75	76

予測

ユーロ円相場見通し

(円)

	2011年	2012年			
	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
期中平均	104.2	100	99	98	98
(高値)	111.6	106	105	104	104
レンジ	¥	¥	¥	¥	¥
(安値)	99.41	94	93	92	92

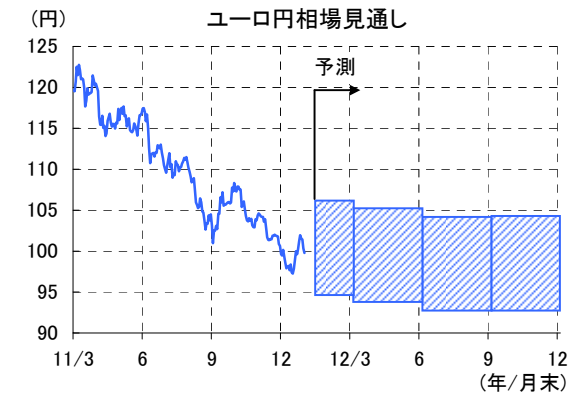
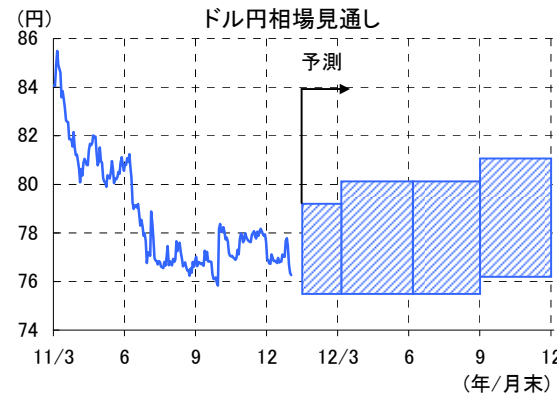
予測

ユーロドル相場見通し

(ドル)

期中平均	1.35	1.30	1.28	1.26	1.25
(高値)	1.42	1.37	1.35	1.33	1.32
レンジ	¥	¥	¥	¥	¥
(安値)	1.29	1.23	1.21	1.19	1.18

予測



(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年2月

内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3カ月 (%)	6カ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F 0/N	1-03ヵ月	10年国債	N Yダウ 工業株	1-03ヵ月	10年国債
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.25	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.25	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.24	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.23	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.23	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.25	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.36	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.45	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.43	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.35	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.31	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.29	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.29	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.29	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.29	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.27	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1.38	3.11
11/6	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.54	1.15	1.13	1.475	1.50	80.51	115.82	9541.53	0.09	0.24	2.99	12097.31	1.43	2.97
11/7	0.30	0.073	0.33	0.44	0.37	0.53	1.13	1.11	1.475	1.50	79.47	113.52	9996.68	0.07	0.22	2.98	12515.68	1.54	2.78
11/8	0.30	0.081	0.33	0.44	0.33	0.46	1.03	1.02	1.475	1.35	77.22	110.62	9072.94	0.10	0.26	2.29	11326.62	1.50	2.25
11/9	0.30	0.080	0.33	0.43	0.34	0.46	1.00	1.00	1.475	1.40	76.84	105.89	8695.42	0.08	0.31	1.96	11175.45	1.48	1.87
11/10	0.30	0.081	0.33	0.43	0.35	0.47	1.01	1.01	1.475	1.40	76.77	105.24	8733.56	0.07	0.36	2.13	11515.93	1.51	2.04
11/11	0.30	0.073	0.31	0.41	0.35	0.45	0.95	0.94	1.475	1.40	77.54	105.05	8506.11	0.08	0.36	2.00	11804.33	1.43	1.95
11/12	0.30	0.078	0.33	0.43	0.38	0.49	1.00	1.00	1.475	1.40	77.85	102.54	8505.99	0.07	0.37	1.97	12075.68	1.36	1.99
12/1	0.30	0.081	0.33	0.43	0.37	0.47	0.98	0.97	1.475	1.40	76.97	99.35	8616.71	0.09	0.35	1.94	12550.89	1.16	1.86

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。